※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００５

令和８年度　（専）情報科

教科	（専）情報	科目	情報実習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

情報社会に存在する多様な課題に対応する力、情報システムの開発やコンテンツの制作及び運用に取り組む態度を養うことを目的としています。

２　学習の到達目標

(1) 情報の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
(2) 情報の各分野に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
(3) 情報の各分野に関する課題を解決する力の向上をめざして自ら学び、情報システムの開発やコンテンツの制作及びこれらの運用などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報の各分野に関する基礎的･基本的な知識･技術を身に付け、現代社会における情報及び情報産業の意義や役割を理解している。	情報の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、情報産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	情報の各分野に関する課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、情報システムの開発やコンテンツの制作及びこれらの運用などに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	情報システムの開発のプロセス	ア 情報システムの開発の概要 イ 情報システムの設計 ウ 情報システムの開発と評価 エ 情報システムの運用と保守	a: 情報システムの開発に関わる技法や工程等について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 b: 情報システムの開発に関わる課題を発見し、情報技術やコンテンツを活用して創造的に解決することができる。 c: 情報システムの開発について、技術革新や社会の変化に対応するために自ら学び、社会の要求に対応した情報システムの開発や運用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	発表 自己評価 相互評価 実習作品	発表 自己評価 相互評価 実習作品	発表 自己評価 相互評価 実習作品
2学期	コンテンツの制作のプロセス	ア コンテンツの制作の概要 イ 要求分析と企画 ウ コンテンツの設計と制作 エ コンテンツの運用と評価	a: コンテンツの設計、制作、運用、評価に関わる知識を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 b: コンテンツの制作に関わる課題を発見し、情報技術や情報システムを活用して合理的かつ創造的に解決することができる。 c: コンテンツの制作について自ら学び、社会の要求に対応したコンテンツの制作や運用に、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	発表 自己評価 相互評価 実習作品	発表 自己評価 相互評価 実習作品	発表 自己評価 相互評価 実習作品

※令和４年度以降入学生用

3学期	実習	ア 情報システムの開発実習 イ コンテンツの制作実習 ウ 情報システム分野とコンテンツ分野を関連させた総合的な実習	a: 情報システムの開発方法やコンテンツの制作方法などについて理解するとともに、これらを総合して社会で実践できる知識を理解し技術を身に付けている。 b: 情報社会における諸課題や情報産業に関わる課題を発見し、情報技術や情報システム、コンテンツを活用して創造的に解決することができる。 c:情報システムの開発及びコンテンツの制作について、技術革新に伴う新技術や新機能など社会の変化に対応するために自ら学び、社会の要求に対応した情報技術の活用に、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	発表 自己評価 相互評価 実習作品	発表 自己評価 相互評価 実習作品	発表 自己評価 相互評価 実習作品

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度